（第3種郵便物認可）　北陸中日新聞　2015年

「県民への不当弾圧だ」

辺野古反対派逮捕　名護署取り囲む

米軍関係者に拘束され引きずられる沖縄平和運動センターの山城博治議長＝22日午前、沖縄県名護市のキャンプ・シュワブゲート前で

米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設に反対する県民の怒りが、さらに燃え上がった。二十二日、沖縄平和運動センターの山城博治議長ら二人が逮捕された名護署には約五百人が集まり、抗議の声を上げた。

＝❶面参照

名護署の周囲を人垣が取り囲んだ。署の門には県警の機動隊約五十人が警戒。市民らは署長による説明も求めたが、姿を見せることはなかった。

ヘリ基地反対協議会の安次富浩共同代表は「米軍による県民の運動への不当な弾圧だ」と述べた。

拘束直前、一緒に抗議行動に参加していた宮古平和運動連絡協議会の清水早子共同代表は「（拘束時は）転んだ人を助けようと複数の人が取り囲み、混乱した状況だった。二人だけを拘束したのは恣意的だ」と指摘し、「反対運動を抑え込むために狙い撃ちしたのではないのか」といぶかった。

拘束された男性の兄も駆け付け、弁護士から接見の結果を聞いた。「後ろから引き倒されたといい、もはや暴力だ。拘束の根拠もあいまいで納得できない」と憤った。

集団自決 風化させぬ

生存者の聞き取り続ける教

金沢で講演会

一九四五年三月に沖縄県の慶良間諸島であった集団自決について、生存者から聞き取り、伝える活動をしている神奈川県大和市下福田中学校の教諭津田憲一さん(六〇)の講演会が二十二日、金沢市で開かれた。同市の平和サークル「むぎわらぼうしの会」が主催した。

津田さんが集団自決の生存者の聞き取りを始めたきっかけは、二〇〇七年の高校日本史の教科書検定だ。集団自決について、日本軍の強制に関する記述に「誤解を招くおそれがある」との意見がつき、出版社側が日本軍の強制に触れない表現に修正。沖縄では大規模な県民集会が開かれた。

〇八年、慶良間諸島の座間味島を訪問し、生存者の話を聞いた。「日本軍から自決用に手りゅう弾を渡された」「校長先生がカミソリで首を切り、その血が降りかかった」―。望まない自決を迫られた無念、そして、悲惨な光景。今までほとんど語ってこなかった記憶を、生存者は津田さんに語った。

「自分たちが黙っていたために、集団自決がないものとされようとしていることに耐えられなかったのだと思う」と津田さんは振り返る。座間味から戻り、聞き取った話を冊子にするかどうか迷った時、現地の人から背中を押された。「おじいやおばあは話したくないことを話した。つまり、あな

以後「話」して、生存動をして冊子を活者に届けた

しかし、使った授業科書の範囲りにくくなから「授業視もされた

「右とか い。事実を師。ものを事実がゆが いるのでは場に漂う覚える。

津田さん だ。「おじ『教科書に 争になる』

集団自決の聞き取りを始めるきっかけとなった沖縄の県民集会を伝える新聞を手に語る津田憲一さん＝22日、金沢市内で